

本時のねらい (6/1 4時)

- ・2位数÷2位数の除法の計算について、仮商が過小商になる場合、仮商を修正して商を見つける筆算ができる。

評価規準<表現・処理>

- ・2位数÷2位数のわり算で、見当を付けた商が小さすぎたときは、仮の商を大きくして計算することができる。

2、本時の展開

段階	学習活動	個のつまずきに応じた指導・援助
問題	1、前時の振り返り 2、問題提示 85 ÷ 27 の筆算の仕方を考えよう、	・割る数34を30と考慮して計算した。 ・商の見当が大きかったので、商を小さくした。
課題	・前時は、1の位を切り捨てたが、今日の問題は、7を十の位に切り上げる。 ・はじめに85 ÷ 30で考えよう。 ・今日の課題は次のようになるだろう。	つまずきの様相 C1: 割る数の見当がつけられない。 → 指導・援助 四捨五入を想起させ、27は30に近いことに気づかせる。
考え	3、課題づくり わる数を大きくしたときのひっさんのしかたを考えよう。	C2: 課題がつかめない。 → 前時学習したことを掲示から思い出させる。
交流	4、個人追求 $\begin{array}{r} 2 \\ 27 \overline{) 85} \\ \underline{54} \\ 31 \end{array}$ → あまりが大きすぎることに気づく。 $\begin{array}{r} 3 \\ 27 \overline{) 85} \\ \underline{81} \\ 4 \end{array}$ ← 商を1つ大きくして計算する。	C3: 27 × 2 の答えが出せない → 掛け算の筆算のヒントカードを渡し、計算させる。 C4: あまりが大きすぎたときにどうするか分からない。 → 考えの流れの分かるまず目入りのヒントカードを渡す。
まとめ	5、ペア交流、全体交流 27を30と見て商をたてると、商は2となります。27 × 2 = 54で、あまりが31になります。あまりが大きいのので、商を3にします。27 × 3 = 81で、あまりが4になります。だから、85 ÷ 27 = 3あまり4です。	C5: 考えはもてたが、説明ができない。 → 説明用のヒントカードを渡す。
評価問題	6、まとめる 見当をつけて立てた商が小さいときには、1つずつ大きくして商をたてる。 りんご問題: 94 ÷ 15 の筆算のしかたを考えよう。 $\begin{array}{r} 6 \\ 15 \overline{) 94} \\ \underline{90} \\ 4 \end{array}$ → わる数の15を20とみて商の見当をつける。小さいことに気づき、商を5にする。まだ小さいことに気づき、商を6とする。	・説明用のヒントカードの拡大版を利用して、全体交流で説明させる。 ・りんご問題の計算用紙を準備しておく。 ・りんご問題ができれば、自己評価を書かせる。